

# 地方創生

## シカから「農作物」を守り、 「小諸ブランド」を作り、 「雇用」を生み出します!!

▼問い合わせ先 農林課 耕地林務係

近年、小諸市ではニホンシカ（以下、シカ）の数が増加しており、特に御牧ヶ原や浅間鳥獣保護区において、生息数が著しく増加しています。シカによる農作物被害や生態系被害が発生しており、被害軽減のためにシカを多く捕獲する必要が出てきました。しかしながら、これまで捕獲を担ってきた猟友会員は高齢化が進み会員の減少が進んでいます。これは小諸市に限った問題ではなく、全国共通の問題であり、いかに捕獲を行える人材を育成・確保するかが、有害鳥獣対策の課題となっていました。

### 先駆的な小諸市の 野生鳥獣対策

小諸市では捕獲者の確保という課題解決に向け、全国の自治体に先駆け、野生鳥獣対策を行う公務員（ガバメントハンター）による「小諸市野生鳥獣対策実施隊」（以下、実施隊）を結成し、捕獲を含めた野生鳥獣対策にあたっています。実施隊は鳥獣の生態に詳しい専門家や獣医師、ベテランの猟師などから構成され、小諸市のような体系的な実施隊は全国的にも珍しく注目されています。

実施隊による捕獲活動の結果、平成23年度は53頭の捕獲数だったシカは、平成27年度には220頭まで増加し、シカによる農作物被害額も減少傾向にあります。

### 新たな課題が発生

小諸市の取り組みが功を奏し、捕獲数は増加しましたが、捕獲したシカの処分数が増加するという新たな課題が発生しました。

これまで、捕獲したシカは、シカが完全に埋まる深さの穴を掘り、埋葬する方法をとってきました。しかしながら、捕獲数増加に伴い埋設場所が足りなくなり、適切に処理を行うには焼却処分せざるを得なくなりました。焼却には250円/kgの費用がかかるため、1頭当たり（約50kg）およそ12、500円の費用がかかります。加えて、実施隊員への報奨費も加えると、年間500万円以上をシカの駆除に費やしていることとなります。

シカの処理に苦慮しているのは小諸市に限ったことではなく、シカの捕獲数が増加している全国の自治体の共通した問題となっています。長野県では「ジビエ料理」としての活用に力を入れています。脂質やコレステロールが少なく体に良い食材であるシカ肉も日本人の口に合わせるには、難しい食材であり、また、安全な肉を提供するための処理施設の設置や、高価である等の問題から、ジビエが普及するには多くの課題を残しています。これらの課題に、小諸市としてチャレンジしていきます。